学校番号	413

平成 31 年度　公民科

教科	公民	科目	倫理	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	高等学校　改訂版　「倫理」　（第一学習社）　（第一　倫理 310）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・青年期の課題に対して、自ら考え、その考えをまとめて表現する活動を行います。
・受け身ではなく、自らの課題として実践的に解決への過程をたどって行くことを求めます。

2　学習の到達目標

・人間尊重の精神に基づいて、青年期における自我の確立と人間としてのあり方、生き方について理解と思索を深める。
・人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者とともに生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	人間尊重の精神と自己形成について関心を高め、人格の形成と生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲を持つ。これらに関わる諸課題を探究する態度を身につけ、人間としてのあり方生き方について自覚を深めようとする。	生きる主体としての自己の確立について広く課題を見いだす。人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究する。良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断し、その過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	青年期における自己形成や人間としてのあり方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集する。有用な情報を主体的に選択し、これらを自己形成に資するように活用し、学び方を身につける。	青年期における自己形成や人間としてのあり方生き方などにかかわる基本的な事柄を生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解する。さらに人格の形成に生かす知識として身につけていく。
評価方法	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・ノート提出	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・ノート提出	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・ノート提出	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・ノート提出

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	青年期の課題と自己形成	青年期の課題と自己形成 1よく生きることを求めて 2青年期の課題 1－青年期とは何か 2－青年期の思考と感情 3－青年期の人間関係 4－青年期の自己形成	○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○	○ ○ ○	a 自分の生きている青年期はどのような位置にあり、どのような発達課題があるのかに興味・関心を持つ。 b 青年期の心身の特徴を把握するとともに、青年期の悩みの心理的特徴に気づき、悩むことが自己形成につながることを理解し、考察する。 c 高校生の意識調査の結果を分析し、そこに現れている現代の高校生の特徴を読み取ることができる。 d 生きることの意味についていろいろな視点から考え、今後の自分の生き方に生かす知識として身につける。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・ノート提出 ・定期考査
1学期	人間としての自覚	2章人間としての自覚 ①ギリシャの思想 1－哲学の形成 2－ソクラテス 3－プラトン 4－アリストテレス 5－ギリシャ思想の展開	○ ○	○ ○ ○	○	○ ○	a ギリシャ思想のものの見方・考え方を理解することにより、私たちにとってどのような意味を持つのかを探求しようとしている。 b ソクラテスの「無知の知」やプラトンのイデア論はどのようなものであるか、両者を比較しながら考察する。 c アリストテレスの現実主義の立場を、プラトンのイデア論と対比しながら理解する。 d ポリス中心の考え方にかわり、個人の内面的平安を求める思想が現れたことを理解する。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・ノート提出 ・定期考査

1学期	人間としての自覚	②キリスト教 １－ユダヤ教の世界 ２－イエス ３－キリスト教の発展 ③イスラーム ④仏教 １－インドの思想文化 ２－ゴータマの教説 ３－仏教思想の展開	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ 	 ○ ○ ○ ○ ○	a 宗教の意義を考え、先人の生き方を手がかりに、どのように生きていくべきかを学ぶ。 b イエスの思想をユダヤ教と対比させ、キリスト教信仰の構造に関心を持つ。イスラームの教えにはどのような特徴があるか、日本に最もなじみの深い宗教である仏教の教えに関心を持つ。 c ユダヤ教やキリスト教とはどのように関係するかを考察する。メッカの方向を調べるなどして、イスラームの基本的教義（六信・五行）を実感する。インドの人々はどのような死生観を持っているかを調べる。 d キリスト教的な生き方や人間観の特徴を探究する。『クルアーン』は、日常の生活で行うことまで規定していることを理解する。仏教思想の現代的な意義はどこにあるのかを考察する。世界で起こっている宗教を原因とする争いを調べ、宗教とは何かについて、意欲的に考察する。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・ノート提出 ・定期考査

1学期	人間としての自覚	⑤中国の思想 １－中国の思想文化 ２－儒家の思想 ３－道家の思想	 ○ ○ ○	 ○ ○ ○	 ○ ○ ○	 ○ ○	a 陰陽五行や風水など、身近なものにも中国の思想との関わりがあることを知り、中国の思想に対する興味・関心を高める。 b 中国の思想は、歴史的に日本に最も大きな影響を与えたものであることを知り、私たちの現在や未来にどのよう関わっているのかを考える c 「『論語』の中の孔子の言葉」から、中国の思想の根本を読み取る。西洋と東洋の源流にある思想を比較して、人間の生き方について説いている内容の共通点と相違点を調べ、発表や討論をする。 d 孔子の政治思想を軸に、徳・礼・仁・孝・君子などの基本用語を理解している。孔子や孟子が説いた仁、老子や荘子が説いた道とは何かを理解している。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・ノート提出 ・定期考査

2学期	国際社会に生きる日本人としての自覚	３章　国際社会に生きる日本人としての自覚 ①日本の風土と伝統 ②外来思想の受容 １－日本仏教の展開 ２－日本儒学の展開 ③町人意識のめざめと庶民思想 １－義理と人情 ２－国学の成立 ３－庶民の思想 ４－伝統思想の成熟	 ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a 日本人の精神的特性が、日本の風土とどのように関連しているのか関心を持っている。日本の思想や文化に大きな影響を与えている仏教や儒教に対する興味・関心が高まっている。義理と人情、倹約と正直、勤労の倫理など、現代に流れる思想に対する興味・関心が高まっている。 b 仏教と生活習慣や年中行事、冠婚葬祭などとの関係に着目し、仏教や儒教の受容について、多面的・多角的に考察している。義理と人情、倹約と正直、勤労の倫理など、現代に流れる思想に対する興味・関心を高め、日本人の庶民思想や勤労倫理の特質はどこにあるのかに気づく。 c 日本の神話や伝承に関する諸資料を収集し、古代の日本人がどのような倫理意識を持っていたのかを理解する。国学の思想と私たちの考え方とで、共通するところ、異なるところ、共感するところなどを発表する。 d 日本人の価値意識と儒教との関連について理解し、正の部分、負の部分をともに検討している。義理と人情の観念、国学が提唱した人間尊重の思想、現代に流れる庶民思想は、どういうものかを理解する。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・ノート提出 ・定期考査

2学期	国際社会に生きる日本人としての自覚	④西洋思想との出会い １－幕末の思想 ２－明治の啓蒙思想 ３－日本社会とキリスト教 ４－近代的自我の確立 ５－社会思想の展開 ６－近代日本の思想課題	 ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ 	 ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○	a 国際社会に生きる日本人として、これからの自分の生き方やあり方について考える意欲が高まっている。 b 幕末の思想の特質や、文明開化が日本の伝統社会にどのような変化をもたらしたかを把握する。 日本の近代思想がどのように展開していったかを理解する。 c 日本人のものの見方・考え方の中で、西洋思想の受容によって形成されたと考えられるものについて資料を収集し、国際社会に生きる日本人としての生き方・考え方をまとめる。 d 幕末の思想、明治の啓蒙思想、近代的自我の確立、社会思想などについて、どういう思想なのかを理解している。近代思想の流れを整理して理解している。日本思想のまとめとして、国際社会に生きる日本人として、これからの自分の生き方やあり方について考える意欲を高め、今後の生き方について考えている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・ノート提出 ・定期考査

2学期	現代に生きる人間の倫理	４章　現代に生きる人間の倫理 ①人間の尊厳 １－ルネサンスと宗教改革 ２－人間性の探究 ②近代の科学革命と自然観 １－近代の科学革命 ２－経験論と合理論 ３－近代科学と社会の進歩	 ○ ○ ○ 	 ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○	a 現代社会において人間の尊厳を自覚することの意義について考える意欲が高まっている。 ベーコンやデカルトの思想を手がかりに、科学技術の発達と自然との共生について興味・関心が高まっている。 b 人間の尊厳に関わる思想家の思索を通して、西洋の近代人は、人間の尊厳をどこに見いだしていたのかを考える。自然と人間の共生をめざす手がかりは何かを、模索しようとしている。 c 先哲の思想の中から、人間の尊厳に関わる資料を収集し、活用する。ベーコンやデカルトの著作を読み、自然は人間の手によって操作できるとする新しい自然観をつかむ。 d ルネサンスの時代に生まれた新しい人間観を、整理して理解している。経験論と合理論の考え方の特色はどこにあるのかを、自己の課題とつなげて理解している。現代社会において人間の尊厳を自覚することの意義について考察できている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・ノート提出 ・定期考査

2学期	現代に生きる人間の倫理	③自由で平等な社会の実現 １－社会契約の思想 ２－人格の尊厳と自由 ── カント ３－人倫と自由の実現 ── ヘーゲル ４－功利主義の思想 ④人間性の回復と主体性の確立 １－社会主義の思想 ２－実存主義の思想 ３－プラグマティズムの思想	 ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ 	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a 社会契約の思想がどのような社会をめざしていたかについて考える意欲が高まっている。幸福とは何かについて、興味・関心が高まっている。近代思想が生まれた背景とその発展過程について、興味・関心が高まっている。 b 近代ヨーロッパの社会契約説を通して、民主社会の成り立ちを理解し、民主社会を実現した社会契約の思想について、多面的・多角的に考察する。カントやヘーゲルは、自由についてどのように考えていたかを理解し、自分自身の生き方につなげている。主体的なあり方は、努力を伴う生き方であることを、実存主義の思想から考察している。 c ホッブズ、ロック、ルソーに関する資料を収集し、社会契約の思想の違いを整理する。カントやヘーゲルの思索の内容を整理して理解する。ベンサムやミルの幸福に対する考え方の違いを理解する。略伝や図版を活用して、思想家の人生をたどりながら思想内容を理解する d 現在の政治的自由は、ヨーロッパ近代の市民革命を基礎づけた思想家たちの考えに基づくことを理解する。西洋近代の思想家たちは、自由の実現についてどのように考えたのか、多角的・多面的に考察している。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・ノート提出 ・定期考査

3学期	現代に生きる人間の倫理	⑤現代の思想と人間像 １－心の深層と無意識 ２－生の哲学と現象学 ３－近代的理性と言語 ４－正義と社会 ５－他者と偏見 ⑥生命への畏敬と社会参加	 ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○	a 現代思想の特徴はどのようなところにあるかを考える意欲が高まっている。実践された倫理を貫いた人々の生き方に対する興味・関心が高まっている。 b 現代の思想はそれぞれ独自の特徴を持っているが、理性に信頼を置く近代の人間像を問い直そうとしている点では共通していることを考察している。 c フロイトやレヴィ-ストロース、ロールズやセンらの著作を読み、現代の思想が発見したり注目したりしてきたものは何かを理解する。 d さまざまな思想家の主張を振り返りながら、私たちの生き方はどのようなものであればよいのかを、多面的・多角的に考察する。思想家の言葉から、自らの思想をそのままに生き、一生そのようにし続けた生き方をつかむ。	

3学期	現代の諸課題と倫理	５章　現代の諸課題と倫理 ①生命の問題と倫理課題 １－生殖医療と遺伝子操作 ２－脳死臓器移植と再生医療 ３－自己決定の尊重と末期医療 ②環境の問題と倫理課題 １－有限な地球環境 ２－生物多様性と自然との共生 ３－予防原則と世代間倫理	 ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ 	 ○ ○ ○ ○ ○ ○	a 生命科学や医療技術の発達が人類に何をもたらしてきたのかについて、興味・関心が高まっている。環境倫理の考え方とはどのようなものか、有限な資源を未来の世代にも配分するために何をすればよいかについて、興味・関心が高まっている。 b 生命倫理、環境問題について多面的・多角的に考察するとともに、広い視野に立って主体的かつ公正に判断している。探究した結果を「問題点を話し合う」「自分の考えを文章にまとめる」などの方法で適切に表現する。 c 生命をめぐって問題となっている事例を収集し、主体的に選択して活用する。環境問題について調べ、有限な資源を未来の世代にも配分するには何をすればよいか、環境倫理の考え方はどのようなものか、などについて考察する。 d 生命倫理、環境倫理の諸問題について、自己の課題として理解し、これからの生き方に生かす知識として身につけている。	

3学期	現代の諸課題と倫理	③家族・地域社会と倫理課題 １－少子化と男女共同参画社会 ２－高齢化と地域社会 ④情報社会と倫理課題 １－情報の洪水と情報リテラシー ２－ネットワーク社会と情報モラル	 ○ ○ ○ 	 ○ ○ ○ ○	 ○ ○	 ○ ○ ○ ○	a 少子高齢社会の問題点には何があるか、都市化の進行で地域社会はどう変化したか、高度情報化の進行によってどのような課題が生じているかについて、興味・関心が高まっている。 b 核家族化や少子化の進行に伴う家族関係の変容、男女共同参画時代の夫婦のあり方、高齢者と地域社会のあり方情報社会を生きていくために必要な能力、情報モラルに関する問題などのテーマから、探究したい課題を見いだし、多面的・多角的に考察するとともに、広い視野に立って主体的かつ公正に判断している。 c 家族・地域社会をめぐって問題となっている事例を収集し、主体的に選択して活用できている。高度情報化やネットワーク社会をめぐって問題となっている事例を収集し、主体的に選択して活用できている。探究した結果を「問題点を話し合う」「自分の考えを文章にまとめる」などの方法で適切に表現できている。 d 家族・地域社会、高度情報社会の諸問題について、自己の課題として理解し、これからの生き方に生かす知識として身につけている。	

3学期	現代の諸課題と倫理	⑤宗教・文化と倫理課題 １－宗教信仰への理解と現代世界 ２－異文化理解と多文化共生 ⑥国際平和と人類の福祉 １－地球市民として ２－平和な世界に向けて	 ○ ○	 ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○	a 異文化を理解するときには何に気をつければよいか、平和な世界に向けて、私たちが果たすべき役割は何か、地球市民としてどのように生きていけばよいかについて、興味・関心が高まっている。 b 多様な外国人と交流する際の倫理的課題、地域紛争や民族紛争、難民問題、戦争と核兵器の廃絶の問題などのテーマから、探究したい課題を見いだし、多面的・多角的に考察するとともに、広い視野に立って主体的かつ公正に判断している。 c 異文化を理解するにあたり問題となっている事例、人類の福祉をめぐって問題となっている事例を収集し、主体的に選択して活用する。探究した結果を「問題点を話し合う」「自分の考えを文章にまとめる」などの方法で適切に表現できている。 d: 宗教信仰や異文化に関わる諸問題について、自己の課題として理解している。人類全体の福祉の実現に関わる諸問題について、自己の課題として理解し、これからの生き方に生かす知識として身につけている。	

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。